

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/05 ～ 2018/01/04)

1. 勉学の状況

月末に期末テストがありました。テスト勉強をしながら今学期を振り返りつつ、来学期の履修計画や自分の進路について考える時間が多かったです。

(1) (POL SCI 104) Introduction to American Government and Politics

アメリカ統治機構の講義です。今月は政党、利益団体、マスメディアの役割について扱いました。それぞれの行動主体が、理想や正義よりも、短絡的な利益を優先する理由について、専門用語を用いて考察していきました。ポピュリズムについて考察することは留学の学習目標のうちの1つだったため、とても興味深かったです。

期末テストは、中間試験と同様、先生が作ったスタディーガイド（試験勉強の具体的な指針）に従って準備をすれば、特に問題はありませんでした。

(2) (POL SCI 175) Introduction to International Relations

国際関係論の講義です。今月は最後のエッセイ課題がありました。お題は、「国際政治において、国際規範と国際法、どちらが重要か」というものでした。これまで計3つのエッセイに取り組んできましたが、その中でも一番漠然としていて難しい問題でした。しかし規範と法の役割について考え直す時間は、この講義の範囲を超えて、自分にとって大切なものでした。なぜならば、日本とは異なる社会規範をもつアメリカで生活をするにつれ、規範の持つ影響力を日々強く感じるからです。留学前は法政経学部の法学コース生として毎日のように実定法を勉強していましたが、今となっては実定法の役割と対比する形で、規範の持つ影響力を身をもって感じることができ、自分の視野を広げるうえで貴重な経験になっています。

この講義を通して、社会科学の他分野や日常生活にまで広く応用可能なフレームワークを得ることができました。（我々の生活は常に国際関係の一部だと考えれば応用可能であることは当たり前かもしれませんが。）今学期とった講義の中で一番興味深いものだったと思います。

(3) (POL SCI106) Politics of World's Nations

比較政治の講義です。今月は民主主義の発展段階にあるとされるメキシコの政治を扱いました。メキシコの麻薬カルテルについての文献が課題に指定された時、なぜ政治の講義で麻薬カルテルの話をするのか分からずにいました。しかし、民主主義の発展のために「人権に敵対的な中間団体の排除」と「統治と被統治の一致」とが必要だとすれば、メキシコにおいては麻薬カルテルの影響力を弱めることこそが民主主義の浸透のために重要だと気づいてからは、興味をもって講義を受けることができました。

(4) (EAP435) Advanced Listening, Speaking, and Note-taking Skills for Internationals

英語のセミナーです。今月は4分ほどのプレゼンをしました。今回は、国連の役割とそれが直面している問題について話をしました。質疑応答で、「将来国連はその役割を十分に発揮できると思うか」という、到底答えようのない質問をされましたが、とりあえず簡潔に回答することができました。先生は、「抽象的な質問に対して答えられていたので、英語力が上がった証拠」と言ってくださいました。

(5) 今学期のまとめと来学期について

今学期は留学の学習目標のひとつであった、「民主主義に内在するネガティブな側面はどのように克服できるか」ということについて、いろいろな角度から考えることができたと思います。来学期はこれらのトピックから少し離れて、(しかし密接に関連している、) 少年の更生保護について考察を深めていきたいと思っています。

2. 生活の状況

(1) 友人について

前述のとおり、今学期を振り返りつつ将来のことも考える時期にあって、友人に自分の将来について相談する機会も多くありました。この手の相談に乗ってくれる友達によく”Everything will be always okay.“ といった趣旨の発言をします。初めはこういう考え方はあまりにも楽観的に聞こえて好きではありませんでした。しかし何日かに渡って会話を重ねるうちに、それは「なるようになるから大丈夫」という意味ではなく、むしろ「仮に失敗したように見えても、自分自身が強くあれば、その失敗すらも価値あるものに変えることができるから、何事も怖がらずにベストを尽くせ」という意味合いであるということに気付き、それ以降は、自分も”Everything will be always okay.”と心のなかで呟くようになりました。自分の中にある恐怖心ほど邪魔なものはありません。

また同じ友達の奨めで、村上春樹の「ノルウェイの森」(Norwegian Wood) を読み始めました。英字で読んでいるのですが、難解な隠喩表現を除けば、教科書よりはるかに速いスピードで読むことができます。(ウィキペディアによると、彼の作品の特徴はまさにこの「テンポの良さと隠喩能力の高さ」にあるようです。) 月間報告書でわざわざ小説のことをとりあげる理由は、単にそれが英語学習に役立っているからではなく、留学という自我を揺さぶられる経験をしている真っ最中にこの小説と出会ったことが、この小説の持つ意味合いを大きく異なるものにしていくとを感じるからです。このような機会を与えてくれる友人に会えただけでも、留学してよかったなと感じます。

(2) 冬休みについて

寮生のほとんどは実家に帰ってしまい、寮には帰る実家の無い留学生しか残っていません。友人と遊ぶ以外の時間はとても暇なので、小説を読んだり散歩をしたりして過ごしています。

クリスマスの朝は教会に行きました。音楽はとても美しかったです、説教はとても眠かったです。年越しは友達に誘われてホームパーティーに行ってきました。友達と一緒に寿司を作って持参したところ、喜んでもらえました。個人的には、何年か前から、もはやクリスマスや年越しを「特別なイベントだ」とは感じなくなっており、それはアメリカに来て変わりませんでした。特にテンションが上がることもなく、日常の一部といった感じでしたが、パーティーに集まった人とお話をするのは楽しかったです。

(3) 最後にいくつか写真を載せます。



冬休み中にミシガン湖周辺を散歩したときの写真です。極寒（ -18°C 、風強し）でした。空はとても低く、どんよりとしていましたが、冬らしくてとても良い日でした。日本人2人、台湾人、アメリカ人の暇人が集まりました。

左は、散歩の途中で寒さから逃れるために入ったカフェの写真です。カフェで談笑しているうちに、気づいたら雪が降り始め、帰るころには辺りは真っ暗になっていました。



再び、UWMのカレッジバスケットを観に行きました。年末ということもあり、会場はガラガラでした。UWMは負けてしまいましたが、4ピリオドに追い上げを見せた時は盛り上がりました。

大学がスタジアム全体を運営していて、スタメン発表などの際にはまるでプロの試合のような本格的な演出がされます。



クリスマスイヴにダウンタウンを散歩している時に撮った写真です。アメリカのクリスマスは家族と過ごすものなので、ほとんどの店は休業しており、街には誰もいませんでした。



年越しにお邪魔した家で撮ってもらった写真です。この犬の名前はステラちゃんです。僕の暑苦しいハグ攻撃にも耐えてくれる、とてもいい子でした。

この日はボードゲームとご飯とお酒を楽しみました。

以上。